

本研修の狙い

～現場を知る人と市町村の協働による認知症施策の推進～

(内容)

1. 事業マネジメントのあるべき展開方法と現状・課題
2. 現状をあるべき展開方法に近づけるための強化ポイントと
本日の研修の位置づけ

埼玉県立大学大学院／研究開発センター
川越雅弘

1. 事業マネジメントのあるべき展開方法と 現状・課題

本来求められている事業展開の方法とは

－厚生労働省「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引きより」－

- 課題とは、「目指す姿」と「現状」のギャップのこと。マネジメントとは、様々な対策により、現状を目指す姿に近づけること（＝課題を解決すること）である。
- 様々な対策の中から、効果的な対策を選択するためには、現状を引き起こしている要因や原因をおさえる必要がある。これを「要因分析」という。これら分析を通じて、**より結果的な対策を関係者で検討・選択し、実行していく**ことになる。
- 課題解決に向けた一連の展開手順を示したものが「PDCAサイクル」で、①課題設定(Step1～3)、②効果的な対策の検討・実施(Step4～6)、③評価(Step7)から構成される。

マネジメントの構造とは

【Step1】目指す姿の設定
(目標・ゴール)

【Step7】効果確認
・対策によって、現状が目指す姿にどの程度近づいたかを確認するために、**何らかの指標を置いて確認する。**

【Step3】課題の選定
・両者のギャップから課題を抽出した上で、**課題の具体化と取り組むべき課題の選定を行う。**

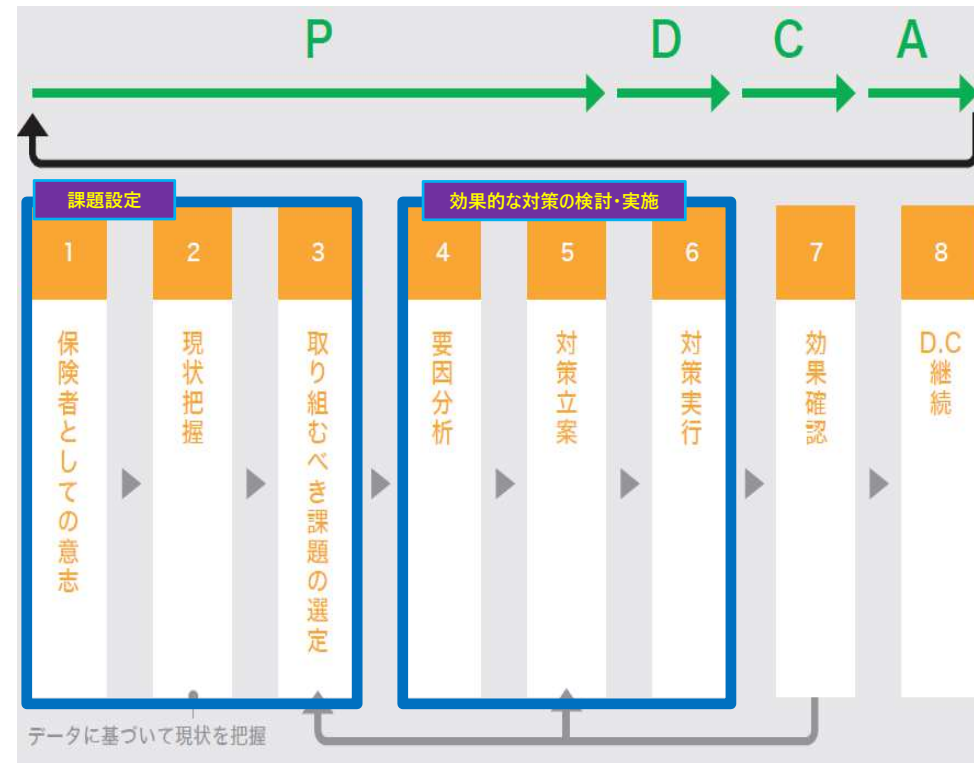
【Step4】要因分析
・効果的な対策を実行するために、現状を引き起こしている**要因の分析を、関係者と一緒に**行う。

対策 (= 取組) の実施

【Step5・6】対策立案・実行
・現状を目指す姿に近づけるために、**関係者で対策を検討・選択し、実行する。**

【Step2】現状把握

PDCAサイクルとは



出所) 厚生労働省老健局介護保険計画課：介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（2018.7.30）を一部改変

現行計画の施策体系とその問題点

(現状把握が不十分／要因分析が弱い／手段から物事を考えている)

【目指す姿】 住み慣れた自宅や地域で、本人らしく暮らし続けられるまち

【基本目標①】

健康で自立した生活を送ることができる

【施策①】

健康づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策②】

介護予防の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策③】

地域づくりの推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策④】

認知症施策の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑤】

介護サービスの充実

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

【施策⑥】

医療介護連携の推進

- 対策1
- 対策2
- 対策3
- …

国の手順と何が違うのか？

- 基本理念や目標は設定しているが、①理念・目標に関する現状分析(例:在宅生活が困難になった人はどれ位いるのかなど)、②要因分析(例:なぜ在宅生活が困難になったのかなど)が不十分である。
- 課題が抽象的なままで、具体化されていない。また、課題間の相互作用の確認、優先順位付けを行わないまま全ての課題に対応しようとしている。
- 「効果的な対策をどう打つか」よりも、国から示された施策を「どのように展開するか」に意識が向いている。そのため、当事者や家族などの思いや悩み・苦しみなどを知る必要があるといった思考に至っていない。

2. 現状をあるべき展開方法に近づけるための強化ポイントと 本日の研修の位置づけ

現状をあるべき展開方法に近づけるための強化ポイント(第1回)

【ポイント1】

効果的な本人／家族支援策を展開するために、当事者や家族の声をまず知ること
(本日の研修の第1部)

【ポイント3】

当事者や家族の声、現場の声を踏まえながら施策を検討している自治体の思考及び展開プロセスを知ること
(本日の研修の第3部)

